

第4回大腸癌治療ガイドライン改訂委員会議事録

日時：平成21年1月15日(木) 10時～11時

場所：都市センターホテル 6F 605

出席者：(委員)板橋道朗、伊藤芳紀、上野秀樹、楠正人、固武健二郎、坂井義治、島田安博、高橋慶一、田中信治、富田尚裕、濱口哲弥、室圭、渡辺順(味岡洋一代理)、渡邊聡明(協力者)井上靖浩、山口直比古(オブザーバー)杉原健一、望月英隆、森崇(ゲスト)東尚弘、宮田裕章(事務局)安野正道(記録)松井孝至、(五十音順、敬称略)

【まとめ】

A) 報告事項

- ・大腸癌治療ガイドラインの解説 2009年版について
- ・大腸癌治療ガイドライン医師用
 - ①改訂作業の進捗状況(2008年7月～)
 - ②評価委員会のコメントへの対応
 - ③公聴会(1月16日)
 - ④利益相反申告書

B) 討議

- ・Clinical question
 - ①Evidence & consensus categoryの決定
- ・「総論」の改訂
 - ①文献検索法：検索過程の記載法
 - ②外部評価
 - ③その他
- ・その他

C) ガイドライン医師用の刊行までのスケジュール

D) 講演「診療ガイドライン・がん登録と診療の質指標(Quality Indicator)」

(国立がんセンターがん予防・検診研究センター 東尚弘先生)

.....

1. 第3回委員会議事録を確認した.

2. 報告事項

1) 「大腸癌治療ガイドラインの解説 改訂版」を2009年1月に発行した。以前に実施したアンケート結果を参考にして、一般人に理解しやすいような平易な文章にすることに主眼を置いた改訂を行った。

2) 大腸癌治療ガイドライン医師用

①改訂作業の進捗状況：2008年7月から9月にかけて査読会を5回開催し、全9領域の本文とCQsを検討した。2008年11月に評価委員会によるレビューを受けた。これらの過程を経て作成された公聴会用資料「大腸癌治療ガイドライン2009年版について」を12月下旬に研究会世話人および全会員施設に郵送した。

②評価委員会のコメント並びに公聴会意見書に関しては各担当委員が回答を作成し、必要であれば全体会議を開催して討議の上、改訂稿に盛り込むこととした。

③公聴会(1月16日)：司会を島田副委員長、総論を固武、各論を渡邊副委員長が担当して改訂の概要を説明する。

④利益相反：ガイドライン作成委員の利益相反状態をガイドラインに記載する。COIの取扱いに関しては大腸癌研究会としての対応が未だ明確に定まっていないが、委員全員が自己申告書を提出し、幹事会を受審することとした。

3. 討議

・ Clinical questions

全委員からの投票結果が出揃った後に **evidence & consensus category** のレベルを決定する。レベルの決定法は予め定められた基準に則る。

・ 「総論」の改訂

①文献検索法：作成過程の透明性を確保するために文献検索・選択の過程を記載することとした。今回は、各項目ごとに検索文献数、選択文献数、ハンドサーチ文献数を記載する。検索式は収載しないが、研究会の **Web** ページに収載することを検討する。

②外部評価：日本癌治療学会のガイドライン評価委員会による外部評価を受審する予定である。

4. 2009年版出版までのスケジュール

2009年1月末日 公聴会意見書締め切り

2009年1月-2月 評価委員会のコメント並びに公聴会意見書に対して討議し対応を決定

2009年3月 外部評価受審(予定)

2009年4月 最終稿脱稿

2009年6月-7月 出版

5. その他

本ガイドラインを海外に紹介する目的で、ガイドライン作成委員会が2009年版の英語版を起草する。作業負担軽減のために翻訳作業の一部を外注する等の方策も検討することとした。

6. 「診療ガイドライン・がん登録と診療の質指標 (Quality Indicator)」と題して東 尚弘先生 (国立がんセンターがん予防・検診研究センター) にご講演いただいた。